

はじめに

本書は社会福祉法人麦の芽福祉会の35周年の節目に、『みんなのねがい』（全国障害者問題研究会の月刊誌）で連載（2017年4月～2018年3月）したものをベースにしています。

本書のタイトル、『夢・ねがいから出発して』麦の芽が拓く、ゆりかごから墓場まで』は、生涯にわたり人間らしく、自分らしく、安心して暮らせる地域づくりをめざす麦の芽の理念の一つです。麦の芽はどんなに障害が重いかまも働ける場を創っていかうという揺るがぬ夢とねがいをもち続け、個々が孤にならぬ生き方と協同・共同の力で創造する本来の福祉のあり方を問い続けてきました。この間、障害者差別解消法の成立や障害者権利条約の批准などにより、障害者の生活・教育・労働などの権利を確保する方策も一定程度、進んできていますが、一方で基本的人権を脅かす構造は変わらず、制度による営利獲得や人権剥奪が起り、社会福祉の根幹が揺れ動いています。基本的人権の最たる侵害が危惧されるのが憲法9条を含めた改憲の動きです。日本国憲法を守り平和を希求する運動とリンクさせながら、麦の芽は「競わず、つぶれず、失わない」を合い言葉に日々の実践を展開してきました。本書は福祉の危機に抗して、ゆりかごから墓場までの実践を多様な視点から紹介しています。

本書が当事者をはじめ障害者問題にかかわり、また関心をもつ多くの方々には何らかの励みや示唆を提供できればとねがっています。

社会福祉法人麦の芽福祉会理事長 内田芳夫

表紙のことば／持橋真実

混沌無差別の世界から月日がたちましたが、今も変わらず万物は宇宙とつながっています。私たち生き物は、さまざまな活動をしています。産業、科学、音楽、教育、いろいろな想い、ねがいを込めて。

「まもりの木」は、私たち生き物が守り守らなければならないものの象徴。とても美しい風景を想像して制作しました。